

平成22年第8回教育委員会臨時会

開会年月日 平成22年7月20日(火)

場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 委員長 外松和子
同 委員 内藤幸子
同 委員 天沼英雄
同 委員 安藤睦美
同 教育長 園部俊介

議 題

1 議案

(1) 議案第39号 特別支援学級教科用図書の採択について

2 答申

(1) 小学校教科書協議会からの答申について

(2) 小学校特別支援学級調査委員会および中学校特別支援学級調査委員会からの答申について

開 会 午後 2時00分

閉 会 午後 3時40分

会議に出席した者の職・氏名

学校教育部長	室地隆彦
庶務課長事務取扱学校教育部参事	阿形繁穂
同 教育指導課長	吉村 潔

傍聴者 0名

(1) 議案第39号 特別支援学級教科用図書の採択について

委員長

ここからは会議を公開して行う。

議案第39号 特別支援学級教科用図書の採択についてである。

審議をしまいるが、各委員には、先ほど教科書を調査していただいた。小学校特別

支援学級教科用図書については、今年度7冊加わって133冊になった。また、中学校の特別支援学級教科用図書については、今年度11冊加わり69冊となっている。

では、各委員の皆さんからご意見をお聞きしたいと思う。いかがか。

では、先によいか。今回新たにということになっている戸田デザイン研究所の「漢字えほん」というのがあるが、まだ漢字のことがわからない入学期の子供に対しては、字の成り立ち、漢字の使い方、そういうものが非常に視覚的にわかりやすく描かれていて、私としてはなかなかいいのではないかと思った。

教育長

小学校、中学校とも、それぞれ自分の学校の児童・生徒の発達段階等を考えて調査した結果だと思うので、調査研究の結果出てきた一般図書については、このとおりでよろしいのではないかと思う。

天沼委員

同じくそのとおり賛成である。よく拝見したが、本当に楽しくわかりやすく学べそうで、それから内容も最新の内容が親しみを持って学べる工夫が入っていてびっくりした。そのほか、中にはカードとか音筆といった、ちょっと検定図書にはないような工夫のものもあって、とりわけ教育的な配慮が必要な子供たちに対しては非常にいいものではないかと思う。

それからまた、子供たちがテレビ番組などを見てクイズ番組などに親しんでいると思うが、そういったクイズ形式で学べるような、何か楽しそうな雰囲気伝わってきそうな、そういった教科書もあったようで、全部いいのかなと、教育長がおっしゃったように、今回の検定図書というか、挙がってまいった一般図書については、私はいいと思った。

内藤委員

私も、特別支援学級用の教科用図書の選択にあたっては、直接指導にあたる先生方、学校の希望を最大限に尊重したいと思う。特別支援学級の児童の学力や、興味・関心・意欲などは大変個人差が大きいという現状があると思うので、個に応じた指導が通常学級以上に求められると思われるからである。

また、練馬の特別支援学級は、学級ごとに特色ある指導がなされていると思う。それぞれがその特色に応じて、そのねらいに即した図書が必要であると思うからである。内容的にも、先ほど見させていただいているが、大変興味・関心を抱くような内容になっていて、また使うのも使いやすいような工夫がされているので、大変いいものが多いかと思ったし、特段問題はないかと思った。また、答申のほうにもそのようになされていたので、新規の7冊を含め、小学校133冊についてもそれでよろしいのではないかと思う。また中学校についても同様に考えている。

安藤委員

私も、小学校は133冊、中学校は69冊ということで、各学級や子供にあわせて、

先生方、また保護者の方々が選んでいるのだなということが伝わってきた。子供の状況を一番よくわかっている方々が選んだものだと思うのでいいと思う。中学校の図書の中にちょっと気になるという意見があったが、私個人としては、特に小さい字だということとはあまり気にならないで、興味を持ってできるのではないかという気がした。

教育長

各学校の研究報告書の中で何も書いていないところがあるが、これはどういう意味か。検定教科書とも何も書いていない。例えば光が丘八小のところで、社会も何にも書いていないし、理科も何にも書いていないし、家庭科も何にも入っていない。あと大泉小学校も書写は全く入っていない。これは検定本という意味なのだろうか。

教育指導課長

例えば光八小の学校名が出たが、社会と理科について確かに書いていないが、生活のところ、生活科というのが社会科とか理科と共通している部分があって、特に特別支援学級の子供であると、改めて社会科を買うというよりも、生活科のところを買っているものを家で使うということがかなりあるのかなと思う。

それからもう一つ、例えば書写なども、改めてそういったものを買わなくても、これは教師の用意したプリントで十分やっていけるということについては買わないということはあると思う。

教育長

ということは、光八小を見ると、理科、社会が3年からであるが、生活科を見ると、生活科は1、2年生である。3年以降のところ、これは、理科と社会もこの教科書でやっていくということであるか。

教育指導課長

使うということである。

委員長

5年生などが「はじめまして にほんちず」とか、6年生で「はじめまして せかいちず」とか、そういう意味だろうか。

天沼委員

そういう意味で、中学校で技術が空欄のところ、幾つかある。これはやはりこの材料を先生方が用意されて、実技が主だと思うが、説明書なども用意されてやられるということで、教科書なしでも済まされるということになるのか。

教育指導課長

特に技術については、買っている学校もあるが、なかなか適当な一般図書がないというのが実態ではあると思う。であるから、技術として買うというよりも、先ほど言った

ように、技術とか、家庭とか、美術とか、そういったものの中から一緒に学習しているというのが実態かなと思う。

教育長

中学校は使っていない。

委員長

教育指導課長がおっしゃったように、現実的にはそうやって多分、美術の時間や家庭科の時間で技術を習得しているというのが実態なのではないか。確かにそれはもらっても探すのもなかなか難しいかもしれない。

教育長

というと、光八小の場合、通知表には社会や理科がある。それはあるわけであるか。生活科のところでは教科書があるが、社会や理科の評価をする。

教育指導課長

ちょっと今、教育課程届けを見てもわからないが、特別支援学級の場合は社会とか理科という形でないこともある。

委員長

ただいまのお話に関しては、また今後来年度などに、採択のときにもそのことが生きてくるのかなと思う。よろしく願います。

安藤委員

中学校の教科書の中で、例えば石神井中の理科の教科書や音楽の教科書については、1、2、3年生が共通の同じものを使うと出ているが、これは来年、再来年もずっとそうしていくということか。

教育指導課長

3学年を1つの教科書でという場合があるが、これはでは、来年も再来年も必ずそうしていくかという、実はそうではない部分もある。というのは、例えば指導者が変わった場合、教員が変わった場合に、教員の考え方でそういうやり方ではなくて、やはり学年ごとにしようとかそういった場合もあるので、必ず同じということではないが、石神井の場合には、とりあえず3学年を1つの教科書でやっていこうという考え方をしたのだと思う。

委員長

まさに学校によって、それから児童・生徒の実態によって変わってくるということなのだろう。もちろんあと先生方によって。

では、たくさんのご意見をありがとう。特別支援学級の教科用図書ということで、個

に応じた指導が必要である。そしてまた、それぞれの学校の特色に応じた一般図書を選択しているということで、小学校133冊、中学校69冊、来年度採用ということになる。

それでは、議案第39号については承認でよいか。

委員一同

よい。

委員長

では、議案第39号は「承認」とする。

それでは最後に、小学校の教科用図書の採択についてお諮りしたいと思う。

来年の平成23年度から使用する小学校教科用図書については、本日、先ほど報告を受けた教科書協議会からの答申を踏まえて、8月9日に予定されている定例会で採択をしまいたいと考えている。

については、採択するまでの期間中、調査・研究のための臨時会を招集したいと思う。その日程に関しては、各委員の皆さんと今後調整していきたいと考えている。

また、その調査・研究については、審議を行う会議ではないために「非公開」で行いたいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、調査・研究に関しては「非公開」とする。なお、8月9日の採択の審議については公開となるということを申し添えておきたいと思う。

では、以上で、平成22年第8回教育委員会臨時会を終了する。